

富山県高次脳機能障害支援センター

## 【研究目的】

自動車運転は障害者が生活行動範囲を広げる一つ的手段として重要であるが、高次脳機能障害者の自動車運転の可否における明確な評価基準はない。そこで富山県高次脳機能障害支援センターにおける高次脳機能障害者に対する自動車運転評価の現状を調査した。

## 【研究対象・方法】

2007年1月～2010年12月までに富山県高次脳機能障害支援センターに相談に直接来所し、登録された名の166名のうち、自動車運転評価を希望された17名を対象とした。平均年齢は42.4歳、男性16名、女性1名で、疾患は、頭部外傷10名、脳卒中6名、髄膜脳炎1名であった。

対象者に対して身体運動機能評価、神経心理学的検査(WAIS-III、WMS-R、TMT-A/B、BADs等)、当院で開発した「視覚的探索課題-反応時間検査」を施行した。「視覚的探索課題-反応時間検査」とはPCモニター画面(17インチ)を縦3、横6に等分割し、計18個のマスを作成し、その各マスにランダムに指標を表示させ、被験者がその指標に気づき次第机上のボタンを押し、その反応時間を測定するものである。指標は各マスに5回ずつ、全部で90回表示(検査時間は約4分30秒間)され、各マスの平均反応時間を算出することにより、視覚的注意障害の程度を評価することが可能である。また、自動車運転適性検査装置(三菱プレジジョン株式会社、DS-2000R)を用いた自動車運転評価も実施しているが、その中には、アクセル・ブレーキペダル踏み替え操作検査、間隔判断力検査、アクセル微調整踏み検査、ハンドル操作検査、瞬時視検査、移動視検査、シミュレーション検査等が含まれている。対象者に対してすべての評価を行っているわけではなく、アクセル・ブレーキペダル踏み替え操作検査を中心に必要に応じていくつかを組み合わせて実施している。担当作業療法士は、種々の検査結果により総合的に判断し、対象者とその家族に指導を行っている。

本研究では、対象者の実際の自動車運転について調査し、実用的な自動車運転の有無と各種検査結果の関連について検討した。統計学的処理は、群間の平均値の比較には対応のないt検定を用い、分割表分析には $\chi^2$ 検定を用いた。

## 【結果】

## ①対象者のプロフィール

	自動車運転あり	自動車運転なし
症例数	10例	7例
相談時年齢	42.8±4.8 歳	41.9±5.3 歳
受傷・発症年齢	39.8±4.8 歳	38.1±6.4 歳

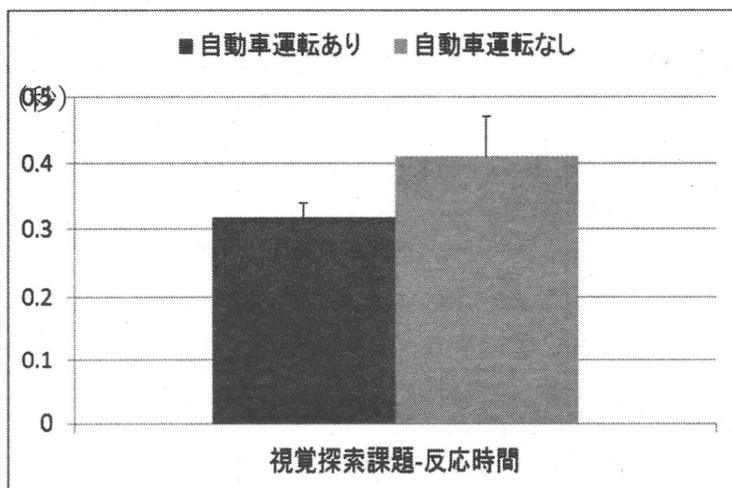
年齢は群間での有意差を認めなかった。(mean±SEM)

## ②神経心理学的検査結果の一覧

	自動車運転あり	自動車運転なし
WAIS-III VIQ	89.3±6.4 (n=10)	90.3±8.1 (n=7)
PIQ	90.9±6.7 (n=10)	80.3±6.0 (n=7)
FIQ	89.6±6.7 (n=10)	84.4±6.0 (n=7)
WMS-R 言語性	87.1±6.9 (n=9)	82.1±10.1 (n=7)
視覚性	98.3±6.8 (n=9)	89.4±6.6 (n=7)
一般的	88.9±7.0 (n=9)	81.0±9.7 (n=7)
注意集中力	88.1±8.5 (n=9)	89.0±10.8 (n=7)
遅延再生	86.6±6.4 (n=9)	72.9±9.5 (n=7)
TMT -A	123.4±18.3 (n=10)	198.7±48.8 (n=7)
-B	189.2±36.2 (n=10)	233.3±44.6 (n=5)
BADS (年齢補正得点)	100.3±7.0 (n=8)	81.7±9.8 (n=7)

上記のすべての項目において、2群間に有意差は認めなかった。(mean±SEM)

### ③視覚的探索課題 - 反応時間検査



自動車運転あり群の方が、自動車運転なし群より、反応時間が短い傾向があった ( $p=0.10$ )。

### ④アクセル・ブレーキペダル踏み替え操作検査

	自動車運転あり (9例)	自動車運転なし (7例)
良	6例	0例
普通	3例	2例
境界	0例	2例
不可	0例	3例

良 (0.72 秒以下)、普通 (0.73 秒~0.8 秒)、境界 (0.81 秒~1.0 秒)、不可 (1.1 秒以上、操作間違い等) の4段階評価となっている。  
( $\chi^2$ 検定、 $p=0.01$ )

### 【考察】

自動車運転は高次脳機能障害者においても生活行動範囲を上げる一つ的手段として重要であるが、高次脳機能障害者の自動車運転の可否における明確な判断基準はなく、当センターにおいても、種々の検査結果を総合的に判断し、おおよそ自動車運転可能群、境界群、不可群の3段階に分けているのが現状である。担当作業療法士は、「視覚的探索課題 - 反応時間検査」や自動車運転適性検査装置によるアクセル・ブレーキペダル踏み替え操作検査をより重要視しており、これらの検査結果が実際の自動車運転の有無とも関連があることから、これらの評価方法が高次脳機能障害者の自動車運転評価に有用である可能性が示唆された。自動車運転時には、前方を中心とした周囲の危険事態の発見が不可欠であり、半側空間無視や注意障害の可能性のある高次脳機能障害者の自動車運転評価においては、このような視覚探索課題の検査が重要であることは当然であるが、今後、更なる検討を行い、自動車運転評価における「視覚的探索課題 - 反応時間検査」や自動車運転適性検査装置を用いた各種測定項目の基準作りが必要と考える。

当センターでは、これまで自動車運転評価を施行し、その結果を本人およびその家族に説明している。さらにその上で実際に自動車の運転を希望される場合には、原則、自動車運転免許センターでの適性検査を受けていただくこと、自動車運転教習所等での実車での運転評価を受けていただくことなどの助言を行っている。その後、高次脳機能障害者が自動車を運転する方向で手続きを進めるか、あるいは断念されるかについては、当センターでの評価判定結果以外の様々な要因 (例えば、自動車運転の必要性、自動車運転に対するこだわり、あるいは家族の要望など) によっても左右される可能性がある。しかし、対象者のその後の詳細な経過については把握できていない。自動車運転教習所等での実車での評価を受けられた方々の判定内容や、実際に運転されている方々の詳細な運転状況 (運転頻度や時間、運転移動されている範囲、事故の有無等) を調査し、当院で施行されている自動車運転評価法を再検討することが、今後の課題である。

【参考文献】

- ・加藤 貴志・他：脳損傷者の高次脳機能障害に対する自動車運転評価の取り組み. 総合リハ 36, 1003-1009, 2008.
- ・武原 格：脳損傷者の自動車運転、現状と課題. 総合リハ 38, 457-461, 2010.
- ・橋本 圭司・他：脳血管障害者の自動車運転. OT ジャーナル 36, 8-14, 2002.

【健康危険情報】

特になし

【研究発表】

特になし

【知的財産権の出願・登録状況】

特になし

厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）  
平成 22 年度分担研究報告書  
高次脳機能障害者の地域支援の推進に関する研究  
研究分担者 渡邊 学 大阪府立急性期・総合医療センター  
リハビリテーション科主任部長

研究要旨

1.近畿ブロック連絡協議会における各府県の報告により、昨年度から引き続き 6 府県すべてにおいて支援拠点機関を中心とした支援普及活動が実施されていることが把握された。同時に事業体制における府県間の差や共通の課題が抽出された。これらの課題に対応し、事業の更なる均霑化を進めるためには、近畿ブロック全体において、支援技術や情報の共有といった連携を特に実務担当者レベルで行うことが必須であると考えられる。

2.学校における支援体制について、教員からの幅広い意見（研修会終了後のアンケート結果）は現場からのニーズの高さであると捉えられるのではないかと考えられる。また、連絡協議会では各府県の支援拠点機関においても学校における支援について対応可能だと報告しているところが多い。これらの実情を踏まえると、引き続き、教育現場へのさらなる普及・啓発および支援拠点機関の担える役割の確認が必要であると思われる

A. 研究目的

- 1.近畿ブロック各府県における支援普及事業推進および近畿ブロック内の連携緊密化のために連絡協議会を開催し、実績についての情報交換や事業進捗に資する協議を通して事業の均霑化を目指す。
- 2.研修会の開催や支援拠点機関の支援実績を近畿ブロック内にて共有することで、学校（特に中高生時期）における高次脳機能障がい児・者支援の普及啓発や支援状況の把握を図る。

B. 研究方法

- 1.近畿ブロック各府県の主管課および支援拠点機関、ブロック内の政令市（京都市・神戸市・大阪市・堺市）の主管課に参加を求め、連絡協議会を開催する。また、協議会に合わせて各府県および政令市の支援体制の整備状況を調査する。
- 2.学校での高次脳機能障がいの普及を目的とした教員（小・中・高等・支援学校等）対象の研修会を開催し、研修会終了後にアンケート調査を行

う。また、連絡協議会において各支援拠点機関の中高生に対する支援状況を調査する。

（倫理面への配慮）

本研究は高次脳機能障がい支援ネットワーク確立のための支援が主体であり、いずれの調査・報告も特定の個人が識別できる情報は含まれておらず、個人のプライバシーが損なわれたり不利益をこうむることはない。

C. 研究結果

1.近畿ブロック活動状況

(1) 近畿ブロック連絡協議会の開催（平成 22 年 12 月 1 日 於：ホテルアウイーナ大阪）

【出席者】 56 名（近畿ブロック各府県の主管課および支援拠点機関の支援コーディネーター、ブロック内の政令市の主管課、その他関係機関、当事者・家族会）

【議題】

①「高次脳機能障がい者の地域生活支援の推進に関する研究」の平成 22 年度事業について

②平成21年度末および平成22年度上半期の支援体制の整備状況・実績等の確認および平成22年度下半期の予定について

③事例報告（1.中学生・高校生の支援事例、2.支援ネットワーク連携事例）

④その他（当事者・家族の会の意見、要望含む）

（2）各府県および政令市での支援体制の整備状況（近畿 別添資料1参照）

## 2. 学校における高次脳機能障がい児・者支援の普及啓発および支援状況の把握

（1）学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会を開催（平成22年12月3日 於：ホテルアウイーナ大阪）

【出席者】115名（大阪府内の小・中・高等・支援学校等の教員、近畿ブロック支援拠点機関支援コーディネーター等）

【講演内容】「高次脳機能障がいの理解と支援～学校での支援、ここがポイント～」（講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部長 太田 令子氏）

（2）上記研修会の終了後にアンケート調査を実施（近畿 別添資料2参照）

（3）各府県における中高生に対する支援状況（近畿 別添資料1内「中学生・高校生に対する取り組み」参照）

## D. 考察

1.近畿ブロック6府県すべてにおいて支援拠点機関を中心とした支援普及活動が実施されていることが把握された。相談件数に関しては多くの府県で増加しており、支援普及事業の一定の進捗が確認された結果であると考えられる。特に、関係機関からの相談件数が増加したと述べる府県に関しては地域での支援ネットワーク構築の第一

歩になりうるのではないかと囑望できる。また、大阪府における相談支援者養成研修のような新たな形式での研修会や他機関と連携した勉強会・研修会・講演会、普及啓発のためのポスター・パンフレット・ホームページ作成といった幅広い取り組みも散見されるようになり、府県によっては独自色を持った事業展開がなされていることも確認された。その一方で、「普及・啓発や支援技術の提供」といった基本的なものから「社会資源の開発および地域支援ネットワークの構築」といった地域連携まで幅広い課題が各府県で共通してあげられている。こういった独自事業や共通課題に関しては近畿ブロック内で共有し、府県間で情報交換を行うことでさらなる事業の進展が見込まれると思われる。そのため、連絡協議会以外で意見交換できる場の設定や普段からメーリングリストのようなツールを使って情報交換を行うといった実務者担当者レベルでの交流をさらに深めていくことが急務であるといえる。政令市に関しては府県への協力を中心的な活動とあげる市が多い中、唯一、堺市が来年度以降支援普及事業の一部を大阪府より受託する予定としている。

2.学校における高次脳機能障がい児・者支援について、研修会終了後のアンケートからは、実際に対応にあっている教員より「試行錯誤しながら対応している」という声がある一方、「障がい自体を知らなかった」という声も聞かれた。また、発達障がい者支援との類似や周囲の理解、家族支援が大切だということもあげられている。今回のアンケート結果は教育現場の一端の意見であるにも関わらず、これら幅広い意見があがっている。これを現場からのニーズの高さであると捉えるならば、障がいに対する知識や支援方法に関しての普及・啓発を続けていく必要があるといえる。また、各支援拠点機関においては支援実績や相談対応が可能であるとするところがほとんどであり、そういった府県では、支援を行う土壌が出来てきていると考えられる。

#### E. 結論

近畿ブロックにおける支援普及事業は相談件数の増加等、一定の進捗が確認されたといえる。その一方で、各府県における共通の課題が浮き彫りになってきたことから、各支援拠点機関の自己研鑽と同時に、近畿ブロックの府県間で連携を行うことが事業のさらなる均霑化を進める成因になりうると考えられる。また、学校における高次脳機能障がい児・者支援については教育現場へのさらなる普及・啓発および支援拠点機関の担える役割の確認が必要であると思われる。

#### F. 健康危険情報

特になし

#### G. 研究発表

(近畿 別添資料 3 参照)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

なし

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（府県）（平成22年12月末現在）

府県名		京都府	和歌山県	奈良県
支援拠点機関名		京都府リハビリテーション支援センター	和歌山県子ども・女性・障害者相談センター	奈良県高次脳機能障害支援センター
支援コーディネーター 氏名 職種 常勤 or 非常勤 専任 or 兼務		<ul style="list-style-type: none"> <li>・杉森 悟子(心理職・非常勤(週3日)・兼務)(7月より)</li> <li>・馬淵 翠(臨床心理士・非常勤(週2日)・兼務)(8月より)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩橋 雅美(支援コーディネーター・非常勤・専任)(9月～12月末)</li> <li>・内田 晋(支援コーディネーター・非常勤・専任)(2月より採用)</li> <li>・川崎 美穂(作業療法士・常勤・兼務)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河地 睦美(社会福祉士・常勤・専任)</li> <li>・芦野 美津保(精神保健福祉士・常勤・専任)</li> </ul>
庁内外支援体制整備関連会議の立ち上げについて	庁外(会議名及び参加機関名)	●高次脳機能障害支援連絡会議(開催なし)	●和歌山県高次脳機能障害支援普及事業検討委員会 2回(予定含む)	●平成22年度高次脳機能障害支援体制検討委員会(医療関係者、労働局、障害者職業センター、当事者団体、支援拠点機関、県関係課)(予定)
	庁内(会議名及び参加職種・組織名など)	●高次脳機能障害に係る部内勉強会(4回)(予定含む)	—	—
相談件数 ①来院・来所 ②電話 ③メール・書簡 ④その他(訪問・出張・同行など)	当事者・家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>①22件</li> <li>②96件</li> <li>③7件</li> <li>④10件</li> <li>計135件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①41件</li> <li>②117件</li> <li>③96件(8月～)</li> <li>④138件</li> <li>計392件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①101件</li> <li>②424件</li> <li>③62件</li> <li>④3件</li> <li>計590件</li> </ul>
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>①4件</li> <li>②114件</li> <li>③12件</li> <li>④2件</li> <li>計132件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①6件</li> <li>②206件</li> <li>③84件(8月～)</li> <li>④39件</li> <li>計335件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①42件</li> <li>②652件</li> <li>③94件</li> <li>④6件</li> <li>計794件</li> </ul>
研修会・セミナー等の開催状況及び講師派遣 ※詳細は資料集参照		<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会2回(予定含む)</li> <li>●講師派遣5回(予定含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会3回(予定含む)(高次脳機能障害シンポジウム(予定)含む)</li> <li>●講師派遣7回(予定含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会3回(予定含む)</li> <li>●講師派遣2回</li> </ul>
府県内の地域支援ネットワークの整備状況		<ul style="list-style-type: none"> <li>●京都府支援ネットワーク会議(南部圏域・北部)</li> <li>●京都府支援ネットワーク会議(京都市内)(予定)</li> </ul>	●地域での高次脳機能障害研修会の実施及び他機関開催の研修会における講演の実施	—

府県名		京都府	和歌山県	奈良県
拠点機関における訓練の提供状況	医療機関	●京都府立医科大学(支援拠点ではないが、協力医療機関としてコーディネーターが検査、認知リハ等を実施する場合がある。)	—	●診断・検査後に、かかりつけ医療機関に結果を報告。継続した治療・リハビリ等を依頼している。
	福祉・就労支援機関	—	訓練の提供はしていません。	●併設の自立訓練センターの生活訓練(通所)の情報提供を行う。
その他(広報・啓発や独自に取り組んでいる事業など)		●パンフレット「高次脳機能障害者の理解と支援のために」配布(140部+1000部)(予定)	●ホームページの開設 <a href="http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040402/kojino/index.html">http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040402/kojino/index.html</a>	●第10回脳外傷友の会全国大会開催(平成22年6月25日)への協力 ●奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会主催「高次脳機能障害研修会」(平成23年1月29日予定)開催への協力(予定)
研究発表(論文・学会発表・著書など)		論文発表0件 学会発表2件 著書0件	論文0件 学会発表0件 著書0件	論文0件 学会発表0件 著書0件
中学生・高校生に対する取り組み	ケースの有無 「有」ならば ①評価・診断について ②訓練について ③連携機関について	有 ①京都府立医科大学付属病院神経内科・高次脳機能障害外来・主治医 ②公立南丹病院脳神経外科 ③中学校、公立南丹病院 ※新規・継続ケースともに相談があれば随時対応	「有」 ①和医大リハビリテーション科Dr ②琴の浦リハビリテーションセンターOT ③支援学校と連携	なし
	研修会・勉強会等の実施状況	なし	なし	なし
今後に向けての課題		①相談業務、訪問・同行支援に対するコーディネート不足 →支援コーディネーターの体制強化 ②高次脳機能障害者への支援ノウハウ不足 →関係機関とのネットワーク構築 ③社会的リハ(生活訓練等)を担う支援機関の不足 →医療リハから福祉リハ、就労までの一貫した支援体制の構築 ④高次脳障害者に対する理解不足(社会的理解が不十分) →理解促進のための普及・啓発(研修会、講演会の充実)	●高次脳機能障害の周知の拡大 ●県内の高次脳機能障害者数の把握(推計) ●支援マニュアルの作成 ●地域支援ネットワーク構築に向けた支援の強化	●高次脳機能障害の普及・啓発活動(年2回の高次脳機能障害研修会の開催) ●支援ネットワークの構築
平成22年度の支援体制において、平成21年度と比べて変化した特徴や新しい取り組み		●京都府内高次脳機能障害支援体制強化のため、健康福祉部内勉強会を実施。 ●平成22年度8月以降、コーディネーターの勤務時間が週28時間から40時間に増加。2名で40時間を分けて勤務している	●相談件数については延べ人数増加	●相談件数(特に関係機関からの相談)の増加 ●高次脳機能障害普及事業研修会(当事者・家族・関係機関対象)の開催

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（府県）（平成22年12月末現在）

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
支援拠点機関名		滋賀県高次脳機能障害支援センター	兵庫県立総合リハビリテーションセンター	障がい者医療・リハビリテーションセンター
支援コーディネーター 氏名 職種 常勤 or 非常勤 専任 or 兼務		<ul style="list-style-type: none"> <li>原田晴美(介護支援専門員・非常勤・専任)</li> <li>小西川梨紗(臨床心理士・非常勤・専任)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合リハビリテーションセンター 総合相談所</li> <li>小池美帆(作業療法士・非常勤・専任)</li> <li>松山香織(精神保健福祉士・常勤・専任)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府障がい者自立相談支援センター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>栗村 由喜江(CW・常勤・専任)</li> <li>西野 朋子(CW・常勤・兼務)</li> </ul> </li> <li>大阪府立急性期・総合医療センター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>酒井 味香子(MSW・常勤・兼務)</li> </ul> </li> <li>大阪府立障がい者自立センター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>久保 暢宏(CW・常勤・兼務)</li> <li>辻野 琢也(心理・常勤・兼務)</li> </ul> </li> </ul>
庁内外支援体制整備関連会議の立ち上げについて	庁外(会議名及び参加機関名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度高次脳機能障害支援体制整備推進会議(医療機関・保健所・地域活動支援センター・障害者職業センター・更生相談所・行政3・支援施設・支援拠点機関・精神保健福祉センター等) 2回(予定含む)</li> <li>高次脳機能障害支援専門チーム会議(医療機関・障害者職業センター・行政・更生相談所・支援施設・支援拠点機関・地域生活支援センター・精神保健福祉センターなど) 6回(予定含む)</li> <li>むれやま荘・リハビリテーションセンター合同会議(予定)</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22年度 第1回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会(①支援拠点機関関係の職員②自治体の職員③地域保健福祉機関関係の職員④医療機関関係の職員⑤障がい者施設関係の職員⑥就労雇用関係の職員⑦当事者・家族会関係の者⑧教育関係の職員) ※委員20名中19名出席。事務局等13名</li> <li>平成22年度 第2回大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会(予定)</li> </ul>
	庁内(会議名及び参加職種・組織名など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活訓練プログラム検討会議(月1回/高次脳センターとむれやま荘OT・ST・生活支援員・職能指導員)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高次脳機能障害リハ実施検討特別委員会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議会 連携推進チーム会議(月2回程度・3機関の支援コーディネーター(CW・MSW・心理)が参加) 施策推進チーム(随時・3機関の実務責任者(CW・心理・Ns)が参加)</li> </ul>
相談件数 ①来院・来所 ②電話 ③メール・書簡 ④その他(訪問・出張・同行など)	当事者・家族	<ul style="list-style-type: none"> <li>①83件</li> <li>②195件</li> <li>③45件</li> <li>④95件</li> <li>計418件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①166件</li> <li>②216件</li> <li>③55件</li> <li>④訪問7件・同行34件</li> <li>計478件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①484件</li> <li>②547件</li> <li>③85件</li> <li>④26件</li> <li>計1142件</li> </ul>
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>①27件</li> <li>②523件</li> <li>③42件</li> <li>④153件</li> <li>計745件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①9件</li> <li>②201件</li> <li>③5件</li> <li>④訪問1件・同行4件</li> <li>計220件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①206件</li> <li>②784件</li> <li>③192件</li> <li>④22件</li> <li>計1204件</li> </ul>
研修会・セミナー等の開催状況及び講師派遣 ※詳細は資料集参照		<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会5回</li> <li>講師派遣9回(予定含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会2回(予定含む)</li> <li>講師派遣6回(予定含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会5回(予定含む) ※うち1回は相談支援者養成研修(5日間)</li> <li>講師派遣23回(予定含む)</li> </ul>
府県内の地域支援ネットワークの整備状況		<p>「高次脳機能障害支援専門チーム」の会議を定期的実施し、地域の困難事例に対しケース検討を実施。地域における課題を抽出し、高次脳機能障害支援体制整備推進会議に報告。ネットワーク整備に向けて来年度実態調査を実施するため検討を行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域自立支援協議会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構築された地域ネットワークに参画してくれるよう、種々の機関に対して随時協力要請</li> <li>前年度開催できなかった地域の地域ネットワーク会議(1回)を開催</li> <li>大阪市・堺市と協力しマップ作成(予定)</li> <li>地域ネットワーク会議(圏域ごとに計4回)と全体会議(1回)を開催(予定)</li> </ul>

府県名		滋賀県	兵庫県	大阪府
拠点機関における訓練の提供状況	医療機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●滋賀県立成人病センターリハビリテーション科でのOT・ST・CPIによる入院及び外来訓練</li> <li>●県立リハビリテーションセンターにて集団プログラムを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●リハビリテーション中央病院にてOT・ST・心理による診断、訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大阪府立急性期・総合医療センターでのPT・OT・STによる入院リハビリ</li> <li>●障がい者医療・リハビリテーションセンターにおいてOTによる外来認知訓練</li> </ul>
	福祉・就労支援機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>●むれやま荘における自立訓練・自立訓練(生活訓練:定員6名) ※主に高次脳機能障害診断基準該当者。今年度より生活訓練プログラムを実施</li> <li>●就労移行支援(定員:12名)</li> <li>●自立訓練(機能訓練:定員42名) ※身体障害を重複されている利用者を含め、利用者全体の60%近くが高次脳機能障がい者であり、個々に対応したプログラムを提供している。</li> <li>●県立リハビリテーションセンターと県立障害者福祉センターとの協働によりスポーツレクリエーションを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●あけぼのの家(障害者就労支援施設) ・就労移行支援事業:定員20名 ・就労継続支援(B型)事業:40名 ※身体障害者で高次脳機能障害の症状を持たれている方の利用有り</li> <li>●職業能力開発施設 職業的自立を応援するため、兵庫県が独自に設置している施設 評価・開発訓練(情報系・生産系) 高次脳機能障害者の利用有り</li> <li>●自立生活訓練センター(障害者支援施設) ・自立訓練(生活訓練:定員24名) ※高次脳機能障害者対象 ・自立訓練(機能訓練:定員108名)※利用者の60%前後が高次脳機能障害者であり、症状に合わせた小集団プログラムを開発、提供している 入所・通所あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大阪府立障がい者自立センターにおける自立訓練 ・自立訓練(生活訓練:定員20名) ※高次脳機能障がい者対象 ・自立訓練(機能訓練:定員70名) ※利用者の60%が高次脳機能障がい者であり、対応したプログラムを提供</li> </ul>
その他(広報・啓発や独自に取り組んでいる事業など)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●家族向けパンフレット・啓発用パンフレットをご家族、医療機関、支援機関へ随時配布</li> <li>●公文学習を取り入れた高次脳機能障害者への訓練実施</li> <li>●自動車教習所と連携して、脳損傷後の運転評価システム実践中</li> <li>●「模擬運転・運転適性装置」による実地前運転評価及び注意機能訓練等を実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●パンフレット</li> <li>●職業能力開発施設職員を対象とした高次脳機能障害の勉強会</li> <li>●第4回中央病院職員等研究発表大会(予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●府民対象の普及啓発用のポスターを医療機関・福祉機関・市町村等に配布</li> <li>●府民向け、医療機関向け啓発パンフレットを随時配布</li> <li>●大阪高次脳研究会を共催(月1回)</li> </ul>
研究発表(論文・学会発表・著書など)		<p>論文発表0件 学会発表4件(予定含む) 著書0件</p>	<p>論文発表0件 学会発表9件(予定含む) 著書0件</p>	<p>論文発表3件 学会発表9件 著書0件</p>
中学生・高校生に対する取り組み	ケースの有無「有」ならば ①評価・診断について ②訓練について ③連携機関について	<p>有</p> <p>①診断:滋賀県成人病センター・主治医 評価:滋賀県成人病センター・スクールカウンセラー・クリニック 診療:障害者総合診療所(県立むれやま荘)</p> <p>② ③学校・教育センター・保健所・医療機関・千葉県リハビリテーションセンター・生活支援センター・滋賀県発達障害者支援センター・児童デイサービス・市障害福祉課・滋賀県地域生活定着支援センター・保護観察所</p> <p>※新規・継続ケースともに、相談があれば随時対応</p>	<p>有</p>	<p>有</p> <p>①大阪府立急性期・総合医療センター・主治医 ②大阪府立急性期・総合医療センター・かかりつけの病院 大阪府立障がい者自立センターでの訓練(高校生以上) ③学校・教育委員会と連携 他県支援拠点機関と連携(他府県連携)</p> <p>※新規・継続ケースともに、相談があれば随時対応</p>
	研修会・勉強会等の実施状況	<p>公立中学校にて「高次脳機能障害について」の勉強会(予定)</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会(1回) 「高次脳機能障がいの理解と支援～学校での支援、ここがポイント～」(千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部長 太田 令子氏) ※上記研修会と重複</li> </ul>
今後に向けての課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域で継続的に対応できる体制整備(相談機関の充実)</li> <li>●医療・福祉だけでなく教育や企業、司法領域との連携(垣根を越えた啓発・周知)</li> <li>●診断書作成が可能な病院の要請(協力医療機関の要請)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●兵庫県による委員会の設置</li> <li>●新患を受け入れる体制づくり</li> <li>●対応方法等、支援技術の提供</li> <li>●地域ネットワークの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●政令指定都市(大阪市・堺市)との連携</li> <li>●地域ネットワークのさらなる充実</li> <li>●福祉訓練施設(大阪府立障がい者自立センター)の周知</li> <li>●対応方法等、支援技術の提供</li> </ul>
平成22年度の支援体制において、平成21年度と比べて変化した特徴や新しい取り組み		<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談件数についてはのべ件数が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談件数についてはのべ件数が増加</li> <li>●相談支援者養成研修を実施</li> <li>●大阪府下全域にネットワーク資源マップ作成・配付予定</li> <li>●府民対象の普及啓発用のポスターを作成し、医療機関・障がい者支援機関・市町村窓口等に配付</li> </ul>

近畿ブロック 高次脳機能障がい者支援体制の整備状況（政令市）（平成22年12月末現在）

市名	京都市	神戸市	大阪市	堺市	
所管課	京都市 保健福祉局 保健福祉部 障害保健福祉課	神戸市 保健福祉局 障害福祉部(①障害福祉課②心身障害福祉センター・障害者更生相談所③こころの健康センター)	大阪市 健康福祉局 障害福祉企画担当	堺市 健康福祉局 福祉推進部 障害福祉課	
担当者氏名(職種)	三島 美智子 (精神保健福祉相談員)	①加藤 利明(事務職) ②執行 弘幸(心理職) ③角田 弘樹(事務職)	鹿野 一人 (事務職)	永井 義雄 (事務職)	
取り組み状況	独自の取り組み	未実施	特に実施していません。	—	・平成24年開所予定の健康福祉プラザにおける「生活リハビリテーションセンター」の機能についての検討会を開催し、医療・福祉関係者の検討委員により、高次脳機能障害者及び中途障害者への支援と各支援機関との連携を検討(予定)
	府県との連携状況	・市身体障害者リハビリテーションセンターにて関係機関研修会の実施。 ・府主催の支援ネットワークへの協力参加(予定)	兵庫県の支援拠点機関である県立総合リハビリテーションセンターと連携して実施	・大阪市圏域地域支援ネットワーク資源マップ作成のための連絡調整 ・大阪市圏域地域支援ネットワーク資源マップ作成予定、第2回大阪市圏域地域支援ネットワーク会議開催(予定)	・大阪府高次脳機能障がい相談支援体制連携調整委員会へ出席(8/10)
	訓練提供状況	未実施	障害者地域生活支援センター職員等を対象に、研修会・情報交換会を開催	—	—
	その他	—	上記①～③の担当課をはじめ、障害福祉部内の関係課で、必要に応じて調整・協議	—	・第8回堺脳損傷協会研修会の関係機関への周知 ・堺脳損傷協会例会セミナーへ講師として出席(6/6・7/18) ・頭部外傷や病気による後遺症をもつ若者と家族の会15周年記念講演会へ出席(9/11)
その他平成23年度以降の予定	京都府が専門相談窓口を設けており、本市としては専門相談等を設けていないが、各保健センター、こころの健康増進センター、身体障害者リハビリテーションセンター、障害者地域生活支援センター等において個別での相談支援を行っている。	—	—	・大阪府より、大阪府高次脳機能障がい支援普及支援事業を、政令市として一部受託予定。 ・平成24年度開所予定である健康福祉プラザにおいて、生活リハビリテーションセンターを開所の予定しているが、平成23年度からも、一部開所準備業務を行う予定。	
平成22年度の支援体制において、平成21年度と比べて変化した特徴や新しい取り組み	特になし	障害者地域生活支援センター職員等を対象に、研修会・情報交換会を開催	—	・健康福祉プラザの生活リハビリテーションセンター設置に向けた検討会を開催(予定)。	

## 近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
<b>京都府</b>				
第3回京都府高次脳機能障害者・家族交流会	当事者、家族、支援関係者	平成22年7月23日	80名	「高次脳機能障害への対応 ～できるを学ぼう～」 (岐阜医療科学大学教授 阿部 順子 氏)
高次脳機能障害支援医療関係者研修会	医療機関従事者、福祉施設職員、行政関係者等	平成23年1月15日	170名	「高次脳機能障害の評価～神経心理検査の読み方」 (国立障害者リハビリテーションセンター病院 臨床研究開発部長 深津 玲子 氏) 「高次脳機能障害の診かたとアプローチについて」 名古屋市総合リハビリテーションセンター 臨床心理士 長野 友里 氏)
<b>和歌山県</b>				
高次脳機能障害研修会	医療関係者	平成22年9月4日	45名	「高次脳機能障害者への支援について」 (県子ども・女性・障害者センター 赤井 淳博) 「高次脳機能障害の診断とその対応について」 (県立医科大学 板倉徹理事長・学長)
高次脳機能障害研修会	福祉・就労関係者	平成22年12月18日	96名	「生活を支える高次脳機能リハビリテーション」 (国立成育医療研究センター 橋本 圭司 医長)
高次脳機能障害シンポジウム	当事者、家族、医療関係者、教育関係者、就労支援者等	平成23年2月19日	—	基調講演 パネリストによるシンポジウム
<b>奈良県</b>				
平成22年度 第1回高次脳機能障害研修会	当事者・家族・関係機関 等	平成22年11月27日	約200名	「医師と家族の立場から」 (なやクリニック 医師 納谷 敦夫 氏) 「脳外傷による高次脳機能障害の現状と問題点」 (弁護士法人穂高 弁護士 岡田 京一 氏)
平成22年度 第2回高次脳機能障害研修会	就労支援担当者等	平成23年2月7日	約30名 予定	「高次脳機能障害者の就労支援」 (奈良医療センター 特命副院長 脳神経外科 平林 秀裕 氏)
平成22年度 第3回高次脳機能障害研修会	相談支援担当者等	平成22年3月27日	約30名 予定	「講演題目未定」 (西大和リハビリテーション病院 リハビリテーション科 医師 森本 茂 氏)
<b>滋賀県</b>				
高次脳機能障害研修会	相談支援者	平成22年7月8日	79名	講演「高次脳機能障害の特徴と支援の現状～チームアプローチの重要性～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也 氏) 「高次脳機能障害者の就労支援～事例を通じて～」 (東近江圏域働き暮らし応援センター' Tekito-' 野々村 光子 氏)
高次脳機能障害研修会	家族・医療機関等	平成22年12月4日	105名	「高次脳機能障害の対応とリハビリ」 (帝京平成大学 中島 恵子 氏) 「精神科医から見た高次脳機能障害」 (滋賀県立精神医療センター 大井 健 氏)
滋賀県立リハビリテーションセンター教育研修事業	医療従事者等	平成22年10月1日	18名	「高次脳機能障がいに対する診断と評価について」 (滋賀県立成人病センター 川上 寿一 氏)

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
滋賀県立リハビリテーションセンター教育研修事業	医療従事者等	平成22年10月2日	46名	「高次脳機能障がいに対する診断と評価について」 (滋賀県立成人病センター 川上 寿一氏)
滋賀県立リハビリテーションセンター教育研修事業	医療・福祉関係職員等	平成22年11月13日	90名	「高次脳機能障がいの方への対応やケアについて」 (東京福祉大学 教授 先崎 章氏)
<b>兵庫県</b>				
高次脳機能障害ケア研修 <理解編>	医療、福祉職	平成22年10月9日	166名	「医学的観点に基づく症状の理解～発声機序と現象について～」 (リハビリテーション中央病院 心理判定員 因來 愛美氏) 「生活における症状の理解～日常場面から汲みとるポイント」 川崎医療福祉大学 医療技術部 感覚矯正学科 教授 種村 純氏) 「地域における現状の理解～置かれている立場・環境について～」 (高次脳機能障害相談窓口 小池 美帆氏)
高次脳機能障害ケア研修 <支援編>	医療、福祉職	平成23年2月20日	—	「高次脳機能障の生活支援～医師として・家族として～」 (堺脳損傷協会役員・なやクリニック 医師 納谷 敦夫氏) 「高次脳機能障の生活支援」 (大阪府立障がい者自立センター 辻野 琢也氏) 「高次脳機能障害～地域で支える視点・始点・支店～」 (NPO法人笑い太鼓 高次脳機能障害支援センター 所長 加藤 俊宏氏)
<b>大阪府</b>				
高次脳機能障がい 相談支援者養成研修	高次脳機能障がい 地域支援ネットワーク 協力医療機関職員 (MSW・OT・PT・ CP・Ns.等)  高次脳機能障がい 地域支援ネットワーク 地域支援協力機 関職員(相談支援 事業所・障がい者 支援施設・作業所・ 就労・生活支援セ ンター等職員)	平成22年9月10日 平成22年9月14日 平成22年9月27日 平成22年9月28日 平成22年10月5日	45名	1)①「高次脳機能障がいとは」 (大阪府立急性期・総合医療センター リハビリテーション科 渡邊 学 Dr.) ②「診断基準の経過及び内容」 (大阪府立急性期・総合医療センター 池埜 弥生 OT) ③「高次脳機能障がいの診断と評価」 (大阪府立急性期・総合医療センター 伊藤 聡子 CP) 2)高次脳機能障がいへの具体的支援 1.高次脳機能障がいとその基本的対応について ①「高次脳機能障がいとその基本的対応について」 (大阪府立障がい者自立センター 餘家 沙織 OT) ②「社会的行動障がいへの対応」 (大阪府立障がい者自立センター 辻野 琢也 CP) 2.大阪府立障がい者自立センターにおける実際の対応について ①「生活訓練プログラム～支援の視点と支援ツールについて～」 (大阪府立障がい者自立センター 辻野 琢也 CP) ②「高次脳機能障がい者 生活場面での事例紹介」 (大阪府立障がい者自立センター 宮楠 次宏 CaW) 3.「社会福祉制度について(障がい年金、障害者手帳、自立支援法 など)」 (大阪府立急性期・総合医療センター 酒井 味香子 MSW) 3)「大阪府における高次脳機能障がい支援の取り組み」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課 長 久保 博康氏) ・ロールプレイ 4)フィールドワーク(9箇所に分かれて) 5)フィールドワークの報告・情報交換会 ①「当事者・家族からの体験報告」 (堺脳損傷協会 佐原 喜枝子氏) ②「当事者・家族からの体験報告」 (NPO大阪脳損傷者サポートセンター 加道 祐子氏) ・当事者・家族を囲みグループ別交流会 *1)2)3)5)の最後にグループワークとグループ発表あり

近畿ブロック 研修会・セミナー等の実施状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演内容（講演題目及び講演者）
高次脳機能障がい医療関係機関等職員研修会	精神科医療関係機関等職員	平成22年9月25日	138名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業について」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「高次脳機能障がいの精神症状とその対応について」（東京福祉大学 社会福祉学部 教授 先崎 章氏・コーディネーター リ内科診療所 院長 李 利彦氏）
高次脳機能障がい支援関係機関等職員研修会	支援関係機関等職員	平成22年10月21日	209名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業について」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「高次脳機能障がいの理解と対応について～障がい特性に応じた対応方法等～」 （大阪府立大学総合リハビリテーション学部 教授 西川 隆氏） ③「高次脳機能障がいの家族支援について」（NPO大阪脳損傷者サポートセンター「高次脳機能障害相談室」・洛陽病院 言語室 中塚 圭子氏） ④パネルディスカッション「高次脳機能障がい者の地域生活支援について」 ・八尾はあとふる病院 リハビリテーション科 小野 仁之 氏 ・大東市障害者生活支援センター 佐野 未貴 氏 ・泉州中障害者就業・生活支援センター 齊喜 祐輔 氏 ・NPO大阪脳損傷者サポートセンター 石橋 佳世子 氏 ・大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康 氏（コーディネーター）
学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会	大阪府内の小・中・高等・支援学校の教員等	平成22年12月3日	115名	「高次脳機能障がいの理解と支援～学校での支援、ここがポイント～」 （千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部長 太田 令子 氏）
高次脳機能障がい当事者・家族等研修会	当事者・家族等・高次脳機能障がいに関心のある府民の方	平成23年2月5日	243名	①「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業について」（大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康氏） ②「高次脳機能障がいの基礎的な理解と対応について」～家族支援の立場で～ （神奈川県総合リハビリテーション病院 リハビリテーション局長 大橋 正洋氏）

## 近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
<b>京都府</b>				
第9回就労支援スキルアップ研修会	障害者就労支援関係	平成22年8月20日	100名	「高次脳機能障害とは：高次脳機能障害の有る方の就労支援について」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
平成22年度丹後地域リハビリテーション事業・事例検討会	地域リハ関係者	平成22年8月24日	100名	「高次脳機能障害の理解とリハビリテーションについて」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
脳外傷高次脳機能障害リハ講習会北部準備委員会	綾部市関係者	平成22年9月27日	30名	「高次脳機能障害学と府北部のリハビリテーション」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(北部)	一般府民(綾部市等)	平成22年11月27日	101名	「高次脳機能障害について、京都府の現状について」 (京都府リハビリテーション支援センター長 武澤 信夫)
脳外傷・高次脳機能障害リハビリテーション講習会(南部)	一般府民(京都市内)	平成23年1月30日	-	未定
<b>和歌山県</b>				
ボランティア学生勉強会	和大学生(ボランティア学生)	平成22年4月28日	30名	「障害の理解～高次脳機能障害～」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県自立支援協議会	地域相談事業所相談員	平成22年8月6日	40名	「高次脳機能障害の現状と課題」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
大阪高次脳機能リハビリ研究会	高次脳機能障害者支援に関わる方	平成22年10月14日	30名	「和歌山県における高次脳機能障害への取り組み」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県福祉事業団職員研修	職員(施設・相談員他)	平成22年10月28日	40名	「高次脳機能障害の基礎知識及び対応方法」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県有田圏域自立支援協議会	障害者支援に関わる関係機関担当職員	平成22年11月2日	30名	「高次脳機能障害の現状と課題」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山県作業療法士会高次脳研究会	高次脳機能障害に関わるセラピスト	平成23年2月4日	-	「高次脳機能障害の現状と課題」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
和歌山作業所問題研究会	障害者支援に関わる関係機関担当職員	平成23年2月11日	-	「普及支援事業紹介と作業所と連携した症例紹介」 (和歌山県子ども・女性・障害者相談センター 川崎 美穂)
<b>奈良県</b>				
第10回日本脳外傷友の会全国大会	当事者・家族・関係機関 等	平成22年6月26日	約600名	「奈良県高次脳機能障害支援センター ～奈良県の取り組み～」 (奈良県高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美)
第6回奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会	当事者・家族・関係機関 等	平成22年1月29日	約200名	「自立訓練センターの社会的役割～社会資源として～」 「ゼロからの出発 第2の人生 ～高次脳機能障害者として生きる～」 第2部 座長(奈良高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 河地 睦美)

## 近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
<b>滋賀県</b>				
高次脳機能障害研修会	ヘルパー	平成22年6月17日	20名	「高次脳機能障害の理解と対応」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
雇用支援センター新規採用職員研修	就労ワーカー	平成22年7月16日	1名	「高次脳機能障害と高次脳機能障害支援センターについて」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
むれやま荘社会福祉士実習生研修	実習生	平成22年9月13日	2名	「高次脳機能障害について」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
第5回京都府高次脳機能障害(北部)支援ネットワーク会議	医療機関従事者・福祉施設職員・行政関係者など	平成22年10月26日	44名	「滋賀県における高次脳機能障害者支援の現状と課題」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
平成22年滋賀県サービス管理責任者研修	支援員	平成22年11月1日	3名	「高次脳機能障害支援センターについて」 滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美
彦根市障害者福祉推進員研修	障害者相談員、障害者福祉推進員	平成22年11月13日	80名	「高次脳機能障害の理解と対応」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
彦愛犬地域障害者生活支援センターステップアップ21研修会	地域行政機関・福祉・教育・医療・地域住民	平成23年2月14日	40名	「高次脳機能障害の理解と対応」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美)
平成22年度第2回支援コーディネーター全国会議	支援コーディネーター	平成23年2月24日	—	「生活訓練の取り組みの紹介」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 原田晴美) (滋賀県立むれやま荘 植田仁美)
公立中学校職員研修	学校職員	平成23年3月18日	—	「小児高次脳機能障害の理解」 (滋賀県高次脳機能障害支援センター 小西川 梨紗)
<b>兵庫県</b>				
神戸市障害者地域生活支援センター連絡協議会圏域コーディネーター会議	神戸市地域生活支援センター職員	平成22年4月14日	30名程度	「①高次脳機能障害相談窓口の役割や機能について」 「②関係機関との連携等について」 (高次脳機能障害相談窓口 小池美帆)
頭部外傷や病気による後遺症をもつ若者と家族の会(兵庫支部)例会	当事者、家族	平成22年7月10日	30名程度	「高次脳機能障害相談窓口の役割や機能について 業務報告等」 (高次脳機能障害相談窓口 小池美帆)
相談支援従事者初任者研修	福祉職	平成22年11月8日	38名	「高次脳機能障害者のケアマネジメント」 (高次脳機能障害相談窓口 小池美帆)
兵庫県高次脳機能障害リハビリテーション講習会	一般	平成23年1月29日	—	「高次脳機能障害のある“ひと”を支える」 (リハビリテーション中央病院 心理判定員 白川雅之)
播磨町地域ネットワーク会議	医療、福祉職	平成23年2月16日	20名(予定)	「高次脳機能障害について(概要、支援の仕方など)」 (高次脳機能障害相談窓口 小池美帆)
北播磨障害者(児)地域自立支援協議会	—	平成23年3月19日	—	「高次脳機能障害の理解と支援」 (高次脳機能障害相談窓口 小池美帆)

## 近畿ブロック 講師派遣状況

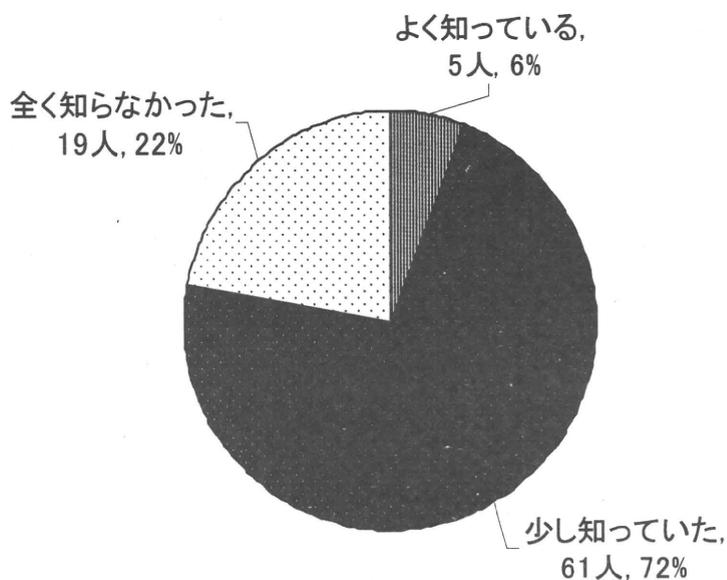
研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
<b>大阪府</b>				
ヘルプセンター・ホップの現任研修	あいえる協会職員・ヘルプセンターホップヘルパー	平成22年5月13日	20-30名程度	「高次脳機能障害について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
第4回京都府(南部)支援ネットワーク会議	高次脳機能障がい者に関わる医療機関従事者、福祉施設職員、行政関係者等	平成22年6月4日	70名程度	「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業の取組」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
八尾のほっと・ケーキの会6月例会学習会	高次脳機能障がい本人と家族、関係機関	平成22年6月21日	32名	「高次脳機能障がいについて 障がいの特徴と支援方法、支援機関など」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
泉州中障害者就労支援ネットワーク研修会	泉州中圏域障害者地域就労支援ネットワーク関係機関	平成22年6月24日	50名	「高次脳機能障がい支援拠点機関、高次脳支援コーディネーターの役割」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
滋賀県 平成22年度 高次脳機能障害支援センター 第一回 高次脳機能障害研修会	支援関係者等	平成22年7月8日	79名	「高次脳機能障がいの特徴と支援の現状～チームアプローチの重要性～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
北河内圏域地域リハビリテーション関係者会研修	北河内圏域の医師、療法士、看護師、ケアマネジャー、介護職員、地域包括支援センター職員等	平成22年9月30日	90名程度	若年脳卒中患者等の生活支援と社会復帰について (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
大阪府言語聴覚士会 高次脳機能障害分科会 第1回勉強会	大阪府言語聴覚士会会員等	平成22年10月1日	46名	「急がば回れの就労支援～就労に向けた生活訓練と就労支援機関利用～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
高次脳機能障害講習会	ヒューマンライツ福祉協会法人職員及び地域住民	平成22年10月20日	30名程度	高次脳機能障害の正しい理解・周知 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
高次脳機能障がい者を支援するインタラクティブ研究会	ヒューマンインターフェース学会員	平成22年10月23日	12名	「高次脳機能障がい者への支援～障がい者自立センターのとりにくみ」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 課長 岩見 和夫)
泉州ブロック精神障害者共同作業所職員連絡会	泉州ブロック精神障害者共同作業所職員	平成22年10月25日	10名	「高次脳機能障がいの理解と支援の取り組み」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
2010年度第4回ピア大阪人権講座	一般市民	平成22年11月13日	70名	「高次脳機能障がいについて～パート2～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康)
住吉区事業所連絡会講演	住吉区内の障がい者支援事業所等	平成22年11月17日	30名程度	「高次脳機能障がい者の理解と支援のあり方 高次脳機能障害の症状とその対応方法について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
府立大学総合リハビリテーション学部作業療法学科地域作業療法学科学実習	大阪府立大学総合リハビリテーション学部作業療法学科3年生	平成22年11月18日	21名	「大阪府における高次脳機能障がい支援普及事業の取組について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 坂之上 豊子)

## 近畿ブロック 講師派遣状況

研修会・セミナー名	対象者	開催日	出席者数	講演派遣者名及び講演題目
大阪府身体障がい者相談員研修	身体障がい者相談員	平成22年 12月6日・ 7日・16日・17日	4日間で 100名 程度	「高次脳機能障がいについて」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 課長 久保 博康・同課 鈴木 明善・栗村 由喜江・西野 朋子)
大阪高次脳リハビリ研究会	高次脳機能障がい支援関係者等	平成23年1月13日	25名 程度	「就労に向けた生活訓練と就労支援機関利用」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
大阪府支援教育研究会冬季研修会	大阪府支援教育研究会会員・ホームページでテーマに興味を持った方	平成23年1月22日	20名 程度	「高次脳機能障がいについて 高次脳機能障がいの症状とその対応方法について」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
此花区自立支援協議会	此花区内自立支援協議会職員	平成23年2月7日	—	「高次脳機能障がい者の理解と支援のあり方」 ～高次脳機能障がいの症状とその対応方法について (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 西野 朋子)
高次脳機能障害講演会	大東市内の自立支援協議会委員・障がい者関係機関・当事者・当事者家族など	平成23年2月9日	—	「高次脳機能障がいとその基本的対応について ～社会的行動障がいへの対応を中心に～」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
高次脳機能障害者の家族交流会(豊中市社会福祉協議会)	高次脳機能障がい者の家族	平成23年2月18日	—	「大阪府の高次脳機能障がい者支援について 大阪府障がい者自立相談支援センターの取り組みなど」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 西野 朋子)
高次脳機能障害ケア研修<支援編>(兵庫県)	医療、福祉職	平成23年2月20日	—	「高次脳機能障がいの生活支援」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 辻野 琢也)
三島圏域地域リハビリテーション研修会	三島圏域地域リハビリテーション病院及び圏域内の医療機関と地域包括支援センターの職員	平成23年2月22日	—	「高次脳機能障がいの方への支援の方法について」 ～高次脳機能障がいに関する知識を高め、これからの支援に役立てる～ (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
いきいきネット相談支援センター「高次脳機能障がいについて」研修会	相談支援ネットワーク・相談支援に関わっている方・関心のある方	平成23年3月9日	—	「高次脳機能障がい～障がい理解や支援の方法について～」 (大阪府障がい者自立相談支援センター 身体障がい者支援課 栗村 由喜江)
池田保健所 高次脳機能障がい関係機関研修会	池田保健所管内(池田市、箕面市、豊能町、能勢町)の医療機関、行政機関、身体・知的・精神障がいの支援機関、施設の職員	平成23年3月24日	—	「高次脳機能障がい者の支援の実際」 (大阪府立障がい者自立センター 自立支援課 餘家 沙織)

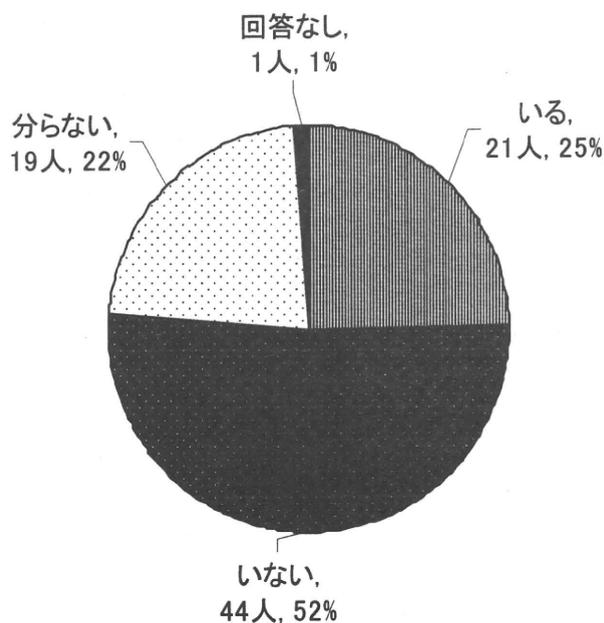
## 「学校における高次脳機能障がい者の就学支援に関する研修会」終了後の アンケート調査結果

Q1. 高次脳機能障がいについて、本日の研修を受けるまで知識はありましたか (N=85)



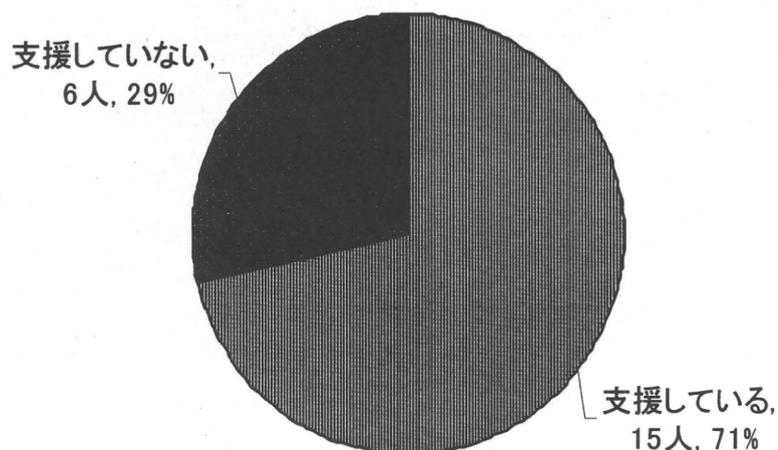
Q1.高次脳機能障がいについての知識

Q2. 皆さんの勤務先（学校）に、高次脳機能障がいと診断された、またはその疑いのある（以下「高次脳機能障がいと診断された」という）児童、生徒はいますか (N=85)



Q2.高次脳機能障がい診断された児童・生徒が在籍しているかどうか

Q3. Q2で高次脳機能障がいと診断された児童、生徒が「ア. いる」と答えたか方にお尋ねします。学校として、何らかの支援をしていますか (N=21)



Q3.高次脳機能障がいと診断された児童・生徒への支援について

「支援している」と答えた方の支援の具体的な内容

支援学級に入級、学習面で個別の支援、ソーシャルスキル学習
支援学級に在籍している。(知的な遅れもあるので)
特別支援学級中心にサポート態勢をとっている
英語だけ支援学級で学習する
特別支援学級に入級し個別指導等をおこなっている。
通級指導教室で発達障がい児へのアプローチと同様な支援
家族学年との懇談
個別学習支援
学校体制として支援の方向をさぐり教育委員会と連携
ゆっくり説明したり、家庭訪問
保護者同意のもと、支援を始めようとしていますが、具体的にどうすればいいのか悩んでいます。
手探りでその生徒その case により色々と言葉がけを他生徒より多く。
中学校の事故のため、中学校との連携。保護者一担当者担任連絡会、体育での複数教員授業など。
学級担任、教科担任